小さな年ちゃん

小川未明

「ころばないようにして、いらっしゃい。」と、お母さんは、 年ちゃんは、片手に財布を握り、片手にふろしきを持って、兄さんのげたをはいて、とし おっしゃいました。

とうふゃ まえ しょ あかいきずるようにしてゆきました。

こわかったのです。けれど、 赤 犬 は、あちらを向いていました。年ちゃんは、 お豆腐屋の前に、大きな 赤 犬 がいました。年ちゃんは、その前を通るのが、とうふや まえ おお あかいぬ とし 、その間に なんだか

お菓子をふろしきに包んでくれました。

「まあ、坊ちゃん、お一人で、えらいですこと。」と、お菓子屋のおばさんは、「まっ」。

ほめて、

年ちゃんは、帰りに、またお豆腐屋の前を通らねばなりません。 赤 犬 が、あちらを向とし

駈け出すと、石につまずいて、ころんでしまいました。年ちゃんはこわくなって、我慢がか だ いし できずに泣き出してしまいました。 いていてくれればいいがと思いました。けれど、今度は、 赤 犬 は、じっと年ちゃんの顔がていてくれればいいがと思いました。 けれど、 今度は、 赤 犬 は、じっと年ちゃんの顔がお

りしたので、年ちゃんは、泣きやんで、目を開けて、 赤 犬 を見ると、やさしそうな目つりしたので、 とし すると、大きな 赤 犬 がやってきて、年ちゃんの顔をべろりとなめました。二度びっくょい かお

きをして、尾を振っていました。

年ちゃんは、 まったく、 赤 犬 が好きになりました。それから、お友だちが、

怖ろしがると、年ちゃんは、

どんなにさびしく思ったかしれません。 そして、お使いにいって、お豆腐屋の前に、 赤 犬 の姿が見えなかったとき、年ちゃんは、っか とうふや まえ あかいぬ すがた み 赤 犬は、やさしい、いい犬なんだよ。」といって、いつも 赤 犬 の弁護をしました。ぁゕぃぬ

きっと、 戦 争 にいって傷ついてきたのだといっていたのでしょう。 さんは、松葉づえをついて、 を買ってあげるだろうと、年ちゃんは思って、その後についていって見ていました。ゕ゚ ある日、 一人のおじさんは、一軒ごとにお家へ入っていきました。みんな、気の毒に思って、薬ひとり 女 中 さんが出て、 兵隊服を着た、へいたいふく 二人連れのおじさんが、お薬を売りにきました。一人のおじ^{ふたりづ} 往来の上で、なにか大きな声を出して、わめいていました。
ぉぅҕҕ っぇ だ

すると、

「いま、お留守ですから。」と、いって、断っていました。

年ちゃんは、先刻、この家のおばさんがいらしったのに、なんでうそをつくのだろうととし

思っていました。

おじさんは、その家を出て、お隣へいきました。お隣も、となり

「いま、お薬がありますから。」と、いって、断っていました。おじさんは、なにか、ぶ、くすり

つぶついいながら、その家を出ました。 今度は、しず子さんのお家です。いつのまに、だれかご門の戸にかぎをかけたのか、おこんど

じさんが開けようとしても、戸は開きませんでした。

た。このとき、年ちゃんは自分の家のお母さんは、このおじさんから、 これを見ていた年ちゃんは、この 薬 箱 を下げたおじさんが、かわいそうになりましょ とし お薬が買ってあげ

るだろうと思いましたので、

「おじさん、僕の家は、あすこよ。」と、年ちゃんは小さな指で、自分の家を指して、おいばく うち

じさんに教えました。

「お坊ちゃんのお家は、あすこですか?」 おじさんは、年ちゃんの顔を見ました。

「僕の家は、あすこよ。ぼくうち

「坊ちゃんは、 いい子ですね。」

かし、おじさんは、せっかく年ちゃんが教えたのに、年ちゃんのお家へは寄らずに、いかし、おじさんは、せっかくをしょり おじさんは、青い顔にさびしい笑いを浮かべて、年ちゃんの頭をなでてくれました。

おりまいます。

ないままいます。

ないままいます。

ないままります。

ないままります。

ないままります。

てしまいました。

思いました。 「どうして、おじさんは、僕の家だけ寄らないのだろうな?」と、年ちゃんは、ぽく うち 不思議に

んには、 「あんな、 わからないので、いつまでも、ぼんやりと道の上に立って、あちらをながめてい いいおじさんを、なんでみんながきらうのだろうか。」と、いうことも年ちゃとし

年ちゃんにだけ、 赤 犬のやさしいのがわかりました。

年ちゃんにだけ、 薬^くすり 売ぅ りのおじさんのやさしいのがわかったのです。

なぜなら、年ちゃんがやさしいから。

青空文庫情報

底本:「定本小川未明童話全集 11」講談社

1977(昭和52)年9月10日第1刷発行

1983(昭和58)年1月19日第5刷発行

1937(昭和12)年5月

底本の親本:「小学文学童話」

竹村書房

初出:「愛育」

1937(昭和12)年3月

※表題は底本では、「小《ちい》さな年《とし》ちゃん」となっています。

入力:特定非営利活動法人はるかぜ

校正:酒井裕二

2016年6月10日作成

青空文庫作成ファイル:

このファイルは、インターネットの図書館、 青空文庫(http://www.aozora.gr.jp/)で作られ

校正、 制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

小さな年ちゃん

2020年 7月18日 初版

奥付

発行 青空文庫

URL http://www.aozora.gr.jp/

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL http://aozora.xisang.top/

BiliBili https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/ ※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。 http://tokimi.sylphid.jp/